



生まれは麻布、育ちは新橋
アナウンサーの仕事
運命づけられたのか

私の放送人生

第9回

元中部日本放送(CBC)
荒川 戦一氏

この全国会報誌に「私の放送人生」が掲載されてから、各先輩方の放送史を拝読しています。春の頃、執筆を依頼され、「人様に語れる程の人生では無いし、もっと立派な方が相應しい」とお伝えしましたが、「アナウンサー出身であれこれ面白いエピソードがあるはず、気楽に好きなように書いてくれれば良い」との事。それなら自史にもなるかとお引き受けしました。40年近い放送人生、同業者の皆様が多少はうなずく部分もあれば、まったく知らなかったという内容になるか、これは本人もどう展開するか先が読めません。賽は投げられました。

クダクダ言わず、思いつくまま書いて参りましょう。読み終えて、同じ放送仲間でこんな奴もいたのかと慨嘆されないように。

第1章 少年時代

CBC入社まで

私、生まれは麻布、育ちは新橋、広尾の日本赤十字病院で産湯を使い、姓は荒川、名は戦一、人呼んでアラセンと発します。名前からしてアナウンサーの仕事運命づけられたのか、どんな世になつても、戦(そよ)ぐ風のように一番に人様の心に届く人になれと命名され、小学→大学まで東京のまん真ん中で過ごして参りました。

近くには犬の散歩コースとして、芝公園、今は東京タワーがそびえ立つ通称カラス山に登り、眼下に徳川家の菩提寺・増上寺を見渡し、時には急勾配の86ものの石段を江戸時代、曲垣平九郎が馬で上り下りし將軍家光公からお褒めの言葉を頂いたという愛宕山へ。この頂上にNHK放送博物館があり、大変興味深くよく出入りをしておりました。これまた、何かの縁があつたのかもしれません。

縁と言えば、年の離れた従兄が英文毎日に勤務していて、我が家に遊びに来たり、時には当

時ハイカラなマスコミ関係者が集うレストランに連れて行つてもらつたりして、将来はこういう雰囲気の人達と一緒に仕事が出来れば良いなと思うようになりました。

歳を重ねて大学3年生。そろそろ就職先を絞らねばと、恵比寿のアナウンスアカデミーに入学し講座を受講。同じクラスで仲良くしたのが、TBSへ入社し人気アナとなる林美雄君でした。こうして放送局受験の準備は整い、晴れて4年生。さあ、どこにするかと調べると、NHKは転勤が多く、それで硬いイメージがあり、東京の民間放送局に絞ると、1966年当時は採用試験があつたりなかつたり。受験可能局は、春の段階でニッポン放送、文化放送、ラジオ関東、TBSのみ。秋になり急遽試験をしたテレビ局もあつたようですが後の祭り。私は何でも早く物事は終えたい質で、就職先は夏休み前までと勝手に決めておりました。小学時代の夏休みの宿題も7月中に終え、8月はたつぷり自由に過ごす事を心掛け、大学時代も必要単

位は3年までに取得し、後は就活と卒論だけでした。へー御立派！とよく言われましたが、後年、早ければ良いことばかりではないと論されました…グスン。

さて、5月に早くもニッポン放送の試験があり、腕試しに受験したら何と5000名強の受験者数。結果1人採用という、まるで宝くじだ。次は家から歩いてすぐのラジオ関東。受付で手続きをしようすると、アナウンサーが説明に来てくれて、「今、会社は大変な時だ。君の将来を考えると止めた方が良い」と説得され、キツネにつままれたよう。確かに当時の社内はワンマン経営や労使紛争で新人が入社しても社員研修も出来ない状態だったでしょう。それはともかく、第一志望はアルバイトもしていたラテ兼営の民放の雄と言われたTBS。ここは何としても入りたいがたがが無念の撃沈。先の林、久米は合格。他の企業も視野に入れるかと思案していると間もなく、TBSのアナウンス部長から「名古屋に行く気があるか。まだ同系列のCBCが受け付け

ている筈だが」の電話があり、まあ名古屋か大阪ならと、早速CBC東京支社に問い合わせると、何と今日午後4時締切ですという。時刻は3時。支社は幸い銀座・松屋デパート裏側で走って40分、歩いて1時間、這って2時間の距離。あわてて必要書類を持って駆け付ける。間に合った！今でも受付嬢の笑顔が忘れられない。

第2章 アナウンス部時代

こうして翌年1967年から私の民間放送第一声、CBCでの我が放送人生がスタートする。同期アナは4人が東京の大学で、島津靖雄、福井豊治、村井秀樹、大阪から三久保角男の計5人。男ばかりの自称「花の5人組」実態はあだ花5人組と、ちよつと謙遜。

4月、本格的な研修が始まる。内容は各先輩アナがプロとしての伝え方を、他の部署や外部の講師からもジャーナリストとしての幅広い知識の指導を受けることに。

こうして6月中旬に初めてス

タジオからの生放送を担当。「初鳴き」と言つて、時間告知や番組紹介等。アナウンス部の各先輩方が固唾をのんで放送を聞いている。

これは相当のプレッシャーで、緊張して何とか終えて恐る恐る部に戻り、発声、トーン、スピードについてレクチャーを受ける。

こうしてひよこアナも徐々に成長し、日勤ローテーション勤務に就くようになる。

出勤するとまず見るのが、勤務表。大きな紙に各アナの勤務が記されている。

例えば、朝11時のニュース、昼1時〜2時までのCM録音、3時のお茶の間ニュース、5時のニュース等を担当。

他の、いつもデスクに張り付いている部署の人から見ると、なんて楽な仕事だと思われがちですが、連続している方がどんなに良いか。なまじつか間があると気の休まる時がない。常に勤務表を確認して次は何時だなど頭に刷り込む。5分ニュースでも30分前に報道でスタンバイ。出来た原稿を何回も下読みし、分からない

い地名、字は聞いたり、調べたり。おまけにアクセントが不安な言葉は常にアクセント辞典を見る。こうして5分前には万全の備えをしたつもりが、急に原稿差し替えが有り、今までの準備は無と化し、あわてて原稿を抱えてスタジオへ。当然満足のゆくアナウンスが出来ず悄然として部へ戻る。

今の様に、ワード原稿でなく、報道の執筆者は個性豊か。くせ字の人の場合慣れるまで相当神経を使う。

5人も同時にアナ入社はCBCでも画期的で、スポーツの重鎮先輩アナが私に、声質から君が一番向いていると声掛けをしてくれた。その時「スポーツは大好きです。特に格闘技、相撲、ボクシング中継はやりたいです」と答えると「いや、それは特別の時で名古屋のレギュラーは中日ドラゴンズの野球中継だ」と言われました。暫く考えますと言っている間に、何と、若者向けの深夜番組を名古屋でも始めることになり、新人4人が抜擢されました。

毎夜、ベンチヤーズ「暁の空中

戦」をテーマソングに「ハガキで当てようカラーテレビと1万円 ヤングリクエスト」が元氣よくスタート。

この4人の担当ディレクターは30代、われわれ以上にライバル心旺盛で各曜日別に凌ぎを削ります。島津アナは低音、色気話を、三久保アナは関西風の軽いタッチ、村井アナは容姿共に優しく甘いムードで女性ファンのハートを驚づかみ、私は喋り出し



深夜番組に新人4人が抜擢されたことを伝える新聞

たら止まらない「カップアラセン」。リクエスト曲を無視して喋り疲れたらレコードを掛けるハチャメチャスタイル。ほとんどが男性ファン。辛い。

まあ、それぞれの個性を生かし大人気番組となりました。同時期にライバル局・東海ラジオも、天野鎮雄、森本レオ、岡本典子で対抗。深夜ファンの間でCBC派×東海ラジオ派ができ、自分の聞いている番組の方が面白いと、スタジオ外での派閥争いもありました。

ただ、深夜遅くに若者がラジオばかり聞いているのは教育上宜しくないという声が上がリ、私は冒頭で「中学生以下は早く寝ろ。今夜もコッペパン齧ってガン



ヤングリクエスト放送中の筆者

ガン行くぞー・・・聞くなと言われれば聞きたくなるのが常。これが逆にヤングの心の火に油を注いでしまった。

野外でも多くのイベントがあり、一つエピソードをご紹介しますと、蒲郡の三河大島でファンの集いがあつた時、何と1万人が集まり東西に会場を分けて大盛況。東側が終わると西へ移動する。小さい島で周囲は4km程。移動は歩き。2人の人気女性歌手がゲスト。するとIさんが、歩くのは嫌だと駄々をこねる。スタッフがマネージャーと何とか説得する。もう1人の森山良子さんはここにこして問題なし。Iさんはその後いつの間にか消え、森山さんは今も大活躍。どの世界も・・・ですかね。

さて、番組人気が高まる程にどんな内容かと大先輩NHK出身の谷田部アナウンス部長が深夜わざわざ起きて聞き、翌朝お会いするなり「アナウンサーがスタジオで馬鹿笑いするな」と叱責されました。アナウンサーの役割、ステイタスが高い頃の時代とのギャップでしょうか。この番



三河大島へ向かう船の上で

組以外にも、当然、日替わりで朝に出社く夕方退社、泊まり勤務もあり、深夜放送、泊り明けが週に2回のペース。当然、朝帰りで独身寮に戻り、もうろうとしながらも昼一番の近くの銭湯に行くとしやきつとしたものです。ある日、いつものように勤務明けで風呂に浸かっていると、爺様が「あんたよく会話が昼から風呂に入るようではなあ、何しているんだい。水商売か？」と聞かれ、確かにこの勤務は堅気の人とは違うと思う、うなずくと「若い時からそれはいけない。真つ当な暮らしをおしよ」と諭されました。

入社4年目「カトレヤミュージック」を担当。松坂屋本店・愛の広場、サテライトスタジオから月々金の公開生放送。花形先輩

アナが長らく担当し、若返りを図るためにお声がかかる。内容は、広場に集まったお客さんとやり取りをしてリクエストをかける。歌手を招き2曲披露。途中、生CMを数分伝える。30分の中にこれだけの情報がある。

「0時半です松坂屋です。カットレヤミュージックです」がスタートの挨拶。

朝出社してすぐ、スタッフと松坂屋へ。松坂屋番組担当者で生CMの準備で、その日の目玉商品の売り場へ。内容をまとめ、ゲストと打ち合わせ。本番15分前には、ステージで前説。あつという間に放送時間。

アナウンサーとして要求される全ての要素がこの番組に含まれていました。

担当は週5回になり「松坂屋にタイムカードを置いたら」とまで言われました。確かに当時は、出社、退社毎にタイムカードを押して勤務状況が把握されるシステム。毎日松坂屋に勤務している感覚でした。

この外に、テレビの番組、ニュースの中継と慌ただしい中、197

4年10月から半年間、CBC制作「ゴールデンアワー連続テレビドラマ・ふたりぼっち」を全国放送。

高峰三枝子、渡辺美佐子、中山仁、高松英郎、川口晶、特別出演・山田五十鈴という豪華メンバー。主演の高峰さんはテレビ情報番組のメイン司会者役で、アシスタントアナに何故か私が指名されました。1回だけ、アナ役なので演技でなく、そのままでの話。

他の番組もあり支障がないならと承諾しました。

ドラマ作りは、ラジオとは比較にならない大人数がそれぞれの



「連続テレビドラマ・ふたりぼっち」にアナ役で出演

持ち場で役割を果たします。痛感したのは、出番までの待ち時間の長いこと。わずかな数分のシーンでも順番に録画するとは限らず、ひたすら待つ。これは初めての体験で、いつも取材などで飛び回る者には別世界。1回の筈が、何故かその後も準レギュラーとなり、スタジオ以外の出番もセリフも増えてきました。担当プロデューサーからは高峰さんの要望なんだよと言われびっくりしました。アナウンサーでは経験できない勉強をさせてもらいました。

ラジオ番組も増え、その中で「歌謡ベスト50」も担当。番組担当中はソラで1位の曲から50位までを言える程で、若い時の勢いでしょうか。今は面影もありませんが。1978年TBSで「ザ・ベストテン」がスタートし、10位以内に歌手が各地にいた時、その地方の歌番組担当アナが中継することになりました。当時のトップスターとの中継では、どこで場所を知るかファンが群がるので、歌手に近づけないようにロープを張り巡らしました。特に「かもめが翔んだ日」で大ブ

レイクした渡辺真知子が熱田神宮に来た時は、夜9時の本番前から異様な熱気で、ロープ周辺には警備員が何人も立ち警戒していました。9時半頃、スタジオの黒柳、久米の呼びかけで、場所を説明し、曲紹介。歌が終わるまでは何とか無事に終えましたが、中継が終わるや否や、群衆が警備の制止を振り切り彼女に殺到。神宮境内玉砂利に彼女は頭を覆い座り込む。突然の事で、私もみくちや、マネージ



「ザ・ベストテン」ではTBSのスタジオから出演したことも



「おはよう CBC」紹介記事

ヤーが怒鳴る修羅場と化しました。幸い何とか彼女を救出しましたが、特に男性ファンは異様な目でこちらを見てくるので恐怖でした。

年に数回はTBSのGスタジオで名古屋地区のベスト10を紹介。時間は3分位ですが、昼から本番同様に2回のリハーサル。ダメーが本人同様に歌い進行する。

さあ本番。生放送で、久米はアナなので時間通りに進めたいが、相方が自由奔放。カメラの段取りも無視。1カメラなのに突然2カメラに振ったりする。

私のコーナーが始まると同時に、すぐ目の前のフロアディレクターが指をぐるぐる回す。時間



同番組で富士山頂から中継

を押しているので早くして、の合図。2回のリハーサルは何だったのか？ まあこちらも3分を2分に、長めの4分にと指示されれば臨機応変に対処はするが…

ラジオ番組では朝7時〜9時の「おはようCBC」が始まり、月々金を2年後輩の中島公司アナ、土曜日を私が担当。最初の1年間は何と地上100メートルの名古屋テレビ塔・展望台をレギュラースタジオに、サブタイトルが「高い所から失礼します」。

月に1度は遠くへと、富士山頂、乗鞍岳と足を伸ばしました。この企画の次は「宿借りワイド」と称して、毎週スタジオ代わりに一般家庭から中継。迎える方

は興味津々。当日は朝5時頃から下準備もあり、バタバタ。

あるお宅では、本番前にごちそうを用意されたが、進行打ち合わせで食事時間はなく、ご厚意に感謝して放送終了後に頂きました。

その後、番組はスタジオに戻り、終了まで数年間担当しました。

おはようCBCを終えるတွすぐ、「荒せんのラジオがいちばん」がスタート。月々金の昼ワイド番組。毎日日替わりで女性アシスタントが変わり、内容は、ニュース、町の商店街応援コーナー、料理、川柳の先生を招き、また、ゲストがぶっつけ本番で来る。打ち合わせもなく、生で進行するが、これは先程のカトレヤミュージックの経験が大いに生きました。

ちなみにゲストの一部を紹介する——吉永小百合、桂歌丸、樋口可南子、舟木一夫、朝丘雪路、西郷輝彦、市川崑、渡辺謙、草刈正雄、岩下志麻、丹波哲郎、阿部寛 等々、このスタジオは正面玄関横の全面ガラス張り。毎日のビッグゲストの顔と生声が聴



「ラジオがいちばん！」のPRパンフレット

けるので大変な人ばかりでした。その中で、スタッフが緊張したのは横山やすしで、来るのか来ないのか、来てもシラフか否か。やきもきしていると、幸い放送開始の午後1時前にマネージャーとスタジオ入り。ゲストコーナーの時間まで静かに待つて拍手でお呼びすると、互いに丁々発止とトークを交わし、無事に終了。ご機嫌でお引き取り下さいました。ディレクターの安堵の顔を今でも憶えています。

嬉しかったのは、1989年の日本民間放送連盟・ラジオ生ワイド番組部門で優秀賞を受賞し、表彰式が沖縄(第37回民間放送全国大会)であり、翌日の沖縄タイムズ第1面にカラー写真つきで大きく掲載されました。

この番組を6年近く続けた後、新ワイド番組で、週1回担当。今度は中日ドラゴンズの元監督・近藤貞雄さんとコンビを組む。畑違いとは言えユーモアもあり、桜の季節には桜のレポートもこなし、謙虚でダンディな人でした。

第3章 プレイヤー

兼マネージャー時代

こうしているうちに、アナウンス部に大改革があり1989年(平成元年)7月、男女42名の内、6名が転部。私は、昼の番組担当のまま、ラジオ制作部へ。

制作部は常に入出入りしている部署でしたが、中に入ると全く勝手が違い、戸惑うことばかり。まず、すぐに担当したのが朝9時からの人気番組の調整卓。簡単な指導を受けて、生放送の音量調整、テーマソング、CMテー

プ、CD等のセッティング。

顔なじみの出演者から「アラセン何してんの?」と不思議がられました。終われば後片付けをして、次の番組担当者にバトンタッチ。昼は別の番組のテープ編集、取材等、更に続けているアナとしての仕事。この流れにも慣れてきた頃、先の朝番組に代わる新番組の企画・製作を、プロデューサーとして担当。

重視したのは朝の時間帯の聴取者傾向、そして私自身が担当したくなる楽しく聞いて為になる内容を目指しました。タイトルもあれこれ話し合い、「つボイノリオの聞けば聞くほど」が1994年スタート。それが今日まで続く長寿番組になるとは、企画もさることながら、出演者、スタッフの並々ならぬ努力の賜物でしょう。この番組も仙台で行われた日本民間放送連盟賞の生ワイド番組部門で優秀賞を受賞しました。アナウンサーとしての受賞と違った喜びでもありました。歳も40代。会社員ですのでプレイヤーからマネージャーに移りましたが、アナウンサーとして



日本民間放送連盟、ラジオ生ワイド番組部門で「優秀賞」を受賞！

の仕事も続き、プレイングマネージャーと両方をこなす毎日。番組担当日はスタジオへ。終了するとデスクへ。

目を通す書類が山のように積まれています。

こうして制作部長を経て、数年ぶりにアナウンス部長として古巣へもどりました。

この後が慌ただしくなります。2年後には、CBCクラブと番組審議委員会事務局長に。

CBCクラブとは東海3県在住の文化人の懇親会。特に芸術家の皆さんは独自の世界をお持ちでプライドが高い。高齢者が多く、ひよんなことでご機嫌を損ねると大変。

年1回の懇親会、夏の暑気払い、ゴルフコンペ。立食なら問題はないが、座る場合は席位置を、ゴルフの場合は組み合わせを考えないとクレームがつく。このクラブにも何人かの理事がいて、人間関係の詳しい方に伺ってから、席や組み合わせを決める。

理事会も毎月あり、私が議題に沿って進行する。このクラブに入会したい方も多く、経歴や、

ある分野に偏らないように慎重に審議して、決定すれば本人に連絡する。350名前後のこの地区屈指の文化クラブである。

放送局の所属となれば、当然テレビ、ラジオで取り上げないわけがない。

「この道を生きて」というタイトルで、自宅や、仕事場に伺い話を聞くが、やはりその道ひと筋の方は努力家で好奇心旺盛、お会いして大きな財産を頂きました。

その中のお一人で、マンドリンが好きで、とうとう自宅にマンドリン博物館を作られた方にインタビューした時、あれこれ話が佳境に入り、そういえば顔までマンドリンと瓜二つと話したら、互いに笑いが止まらなくなりテープを止めた程でした。本当に生放送でなくて良かったです。

番組審議会も学識経験者が揃い、毎月1回、ラジオかテレビの担当プロデューサーに声掛けした番組を審議します。内容を録音し、文字に起こして印刷。1冊にまとめ、社内の主要部署、全国系列局、総務省へ郵送。

番組審議委員の任期は2年。1年ごとに半数が交代。クラブ同様に、東海地区の異なる分野の方を入念に調べ、半数の方を選出します。

こちらも2年勤め上げ、次は事業局へ、広報へとサラリーマンの宿命ですね。

転勤こそありませんでしたが、50代は転部の連続。

肩書きはそれ相応に重くなっても、やはり私は現場人間でした。事務の仕事は100%ミスなくが当たり前でデスクワークが主体。勤務もほぼ定時の毎日。

ボクシングというボディブローのように効いてきます。一方電波に乗せて情報を提供する現場の仕事、見かけは派手でもプレッシャーは半端ではありません。ちょっとした言い間違えたり誤読したりすれば、視聴者からクレームが、社内からは叱責が。KOするかされるか。こちらの方が私には向いているようで、引きずらず翌日には切り替えます。

これがうまく行かないタイプは胃腸や心臓、神経を疲弊し他の部署へ転部、そこで本来の姿を

取り戻し、健康を回復した方もいらつしやいました。

今振り返っても、毎日が真剣勝負で、無事終わった日は安堵したものです。

禍福はあざなえる縄のごとしと言われます。私自身も悲しく辛く悔しい思いも体験して参りましたが、モットーは「明るく元気に爽やかに」です。高齢になってもこの気持ちは変わりません。

最終章 おまけ

まだまだ書き足りませんが、皆様もお疲れと幸いですので、この辺で筆を置きます。

余談ですが我がCBCアナウンサー諸氏の誤読や笑えるエピソードをいくつかご披露をしてお開きと致します。

全て生放送したものです。

正 ビールは

やつぱりサツポロビール
誤 ビールは
サツパリやつぽろビール

正 ペプシコーラ提供
誤 コカコーラ提供

正 株式市況です、

ブラザーミシン5円高

誤 ブラザーミシン

正 歌舞伎、

市川猿之助(えんのすけ)

誤 市川さるのすけ

正 時刻の訂正です。先程1

時とお伝えしましたが2時の誤りです。只今の時刻は3時です

誤 時刻の訂正です。先程1時とお伝えしましたが2時の誤りです。只今の時刻は2時です

* 泊り明けのラジオ・6時のニュースで、寝過ぎあわててスタジオ入り。

「ステテコ姿で失礼します」テレビでないのに...

* 深夜のテレビニュースで担当アナが、スタジオ入り。本番直前、ガラス越しに調整担当者が「おいネクタイしていないぞ」。あわててデスクの下へ。ニュースが始まる。声はすれども、画面は椅子しか映らず...

失礼しました

荒川 戦一 略歴

● 1967年4月

中部日本放送株式会社(CB

C)入社、アナウンス部配属

● 1995年4月

ラジオ局制作部長

● 1996年7月

テレビ編成局アナウンス部長

● 1998年7月

番組審議会事務局長

兼CBCクラブ事務局長

● 2000年4月

事業局専任局長兼国際音楽祭事務局長

総合管理室審査部理事

● 2003年9月

退職

退職後、東京の大学、カルチャーセンターで講師、放送局志望の学生指導。

民放クラブには先輩から、テニス部を創設するので協力して欲しいと言われ、会員になり、現在、東海民放クラブ副理事長兼会報編集長。
頭は俳句・数独、体はテニスで、今生きてまーす。

(広告)

隈研吾氏が手掛けた木の食堂列車

商品番号 3215-17779



憧れの
観光列車

「西武 旅するレストラン52席の至福」乗車&夏の長滞散策バスツアー

長滞・川越の埼玉2大観光名所にご案内!



撮影:岡崎利生



車内でいただくランチは実力若手シェフによる旬の秩父の素材をご用意!

お一人様旅行代金(税込)

24,000円

乗車賃+お食事+バス+添乗員付

出発 8月 7(日)・14(日)

列車の外装・内装・食事などすべてにこだわった走るレストラン列車!

西武新宿駅(10:40集合)→「西武 旅するレストラン52席の至福」車内で昼食→西武秩父駅到着(13:57)=長滞フリータイム=川越フリータイム=西武新宿駅到着後、解散(19:00頃)

■最少催行人員:18名様 ■添乗員同行 ■食事:昼食付

気軽にお出かけ。学び体験! **ポケカル** お問い合わせ・お申し込みは 9時から13時まで受付 【土・日・祝休み】 **ポケカルお客様センター** **03-5652-7020** FAXは24時間受付 ▶ **03-3662-6776**

詳しい旅行・イベント条件を説明したご案内を送付いたします。事前にご確認の上、お申込みください。※写真は全てイメージです。※天候及び道路状況、その他諸事情によりコース・航路・食事会場等が変更となる場合がございます。※「新型コロナウイルス感染拡大に対する弊社対応」についてはHPをご確認ください。※当社は、お客様から取得した個人情報、ツアーの手配およびそれらサービスの受領に必要な範囲内で利用します。また、情報誌等の旅行情報をお届けするために利用する場合がございます。【申込注意事項/キャンセル料/個人情報取扱などの各種お問い合わせ】旅行企画・実施:株式会社ポケカルチャーター 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町16-1 <https://www.poke.co.jp> 一般社団法人 **日本旅行業協会** 東京都知事登録旅行業第2-7696号